

真子語

原典に帰れ

木村榮一

私は多くの師の熏陶をうけて育ってきたが、
師の言葉として忘れられないものが二つある。

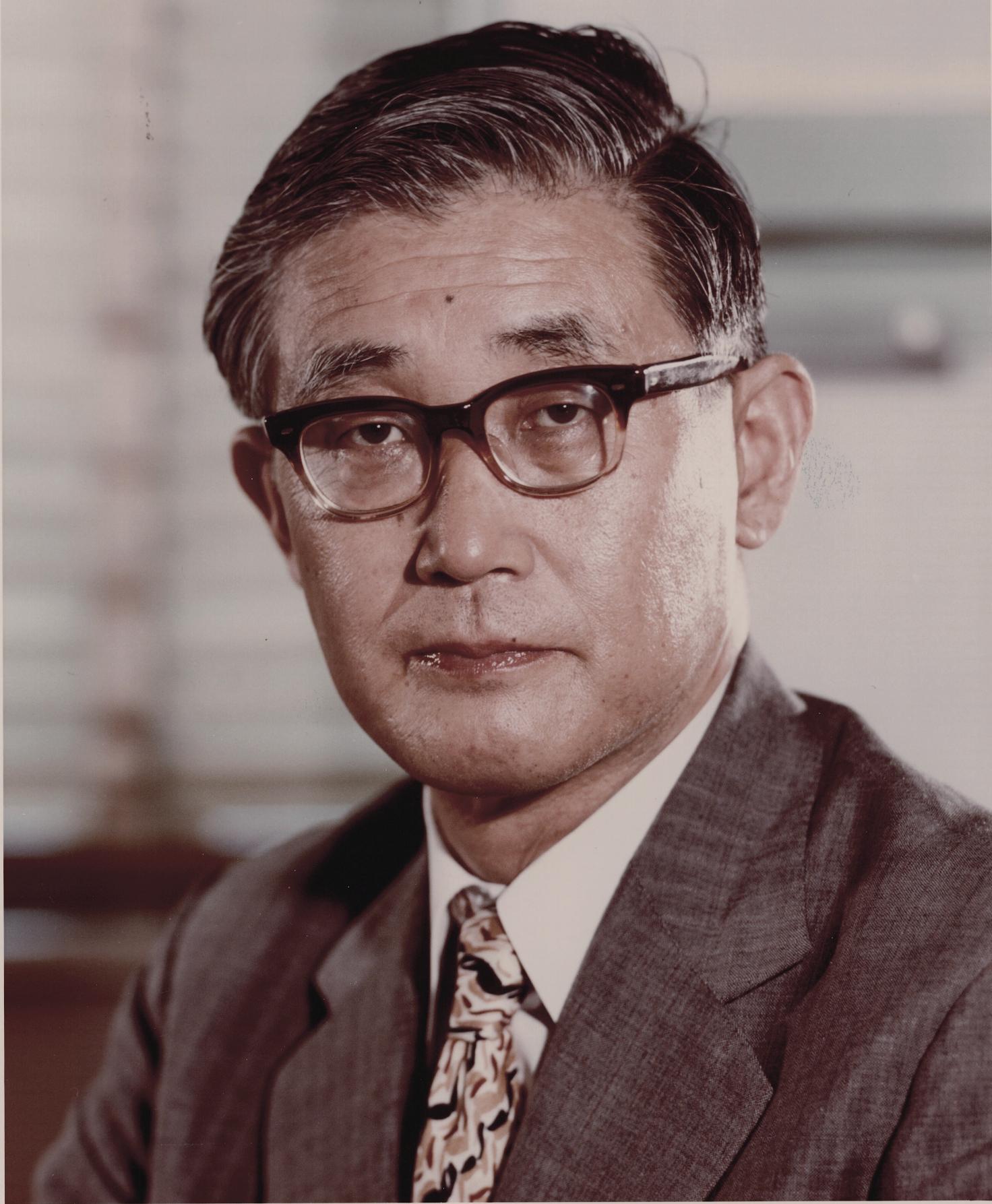
私が東大に在学していたのは昭和一〇年から
一四年であるが、その前後のクラスの人々と
もに太田正雄教授を中心とする会を作っていた。
太田先生は人も知るよに東大皮膚科の教授で
あるとともに、木下杏太郎として、詩人、劇作
家、絵画批評家でもあり、その造詣は古今東西
に及んでいた。その太田先生がいつも言われた
のは、「原典に帰れ」という言葉であつた。

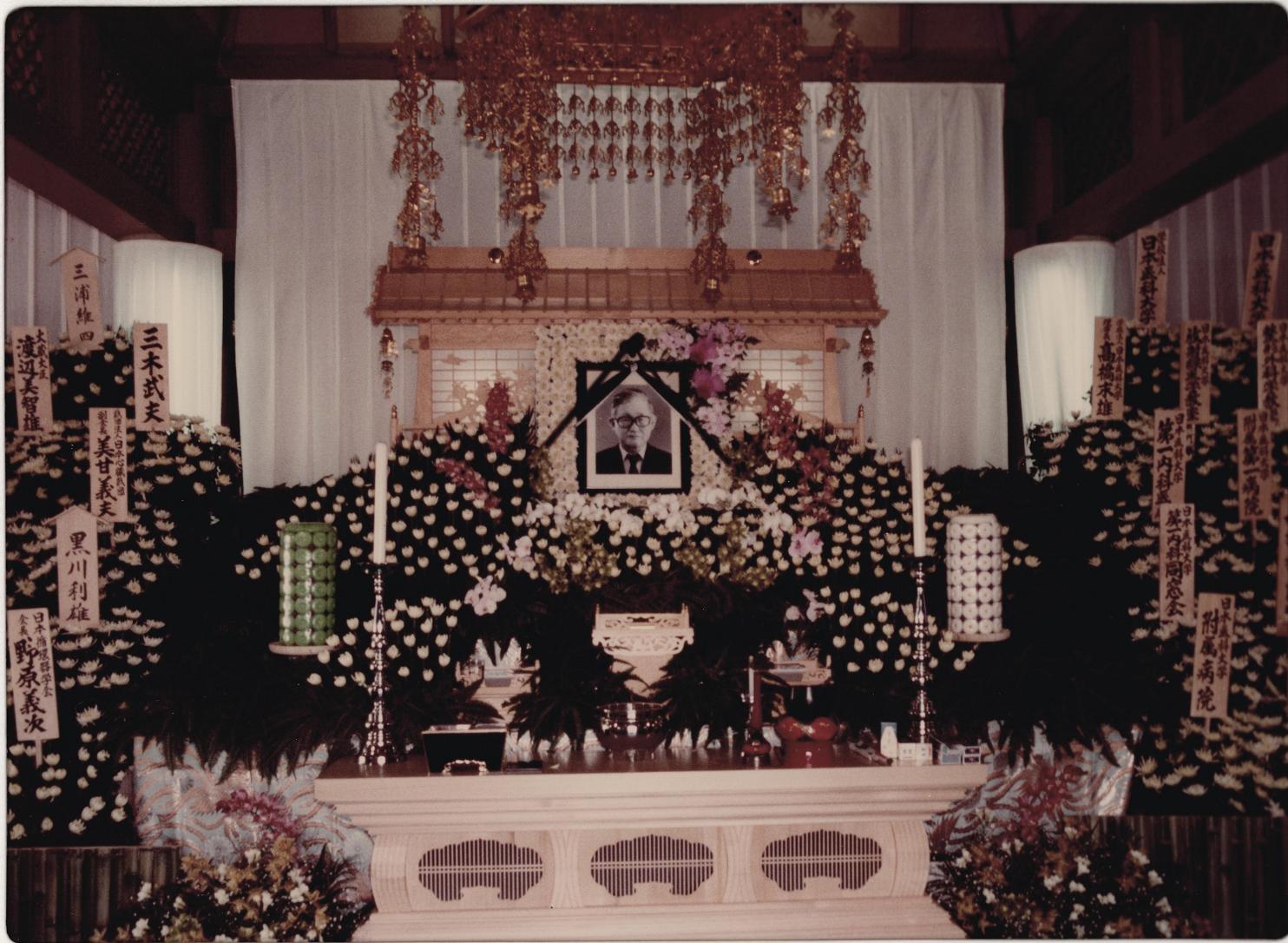
そのいみは、後人の註釈などの入らないオリ
ジナルなものを常によめということだと思われ
るが、医学に関しては、自分の研究に関連した
先人の業績をすべて原著をよんで検討せよとい
うさとしである。

もう一つは、呉建教授（東大内科）が言われ

た、「論文をよむ時には、行と行のあいだをよ
め。あるいは、ページの裏をよめ」という言葉
で、そのいみは、「どの論文でも論理の飛躍が
あつたり、実験データに抜けているところがあ
る。それらは決してその論文の中に明記されて
いない。行と行のあいだにかくれているわけで
あり、それをよみとることによって、その問題
についての新しいヒントをうることができ」
ということである。







Tsuchida
TOKYO — HONGO
TEL(823)1313





